

一人一人がよさを発揮し学びを深める
きくすいもとまち幼稚園の生活



札幌市研究実践園として…

市立幼稚園は、札幌市の研究実践園として、札幌市における幼児教育の将来像「つながる ひろがる 札幌市の幼児教育」の実現に向け、「市立幼稚園の今後の在り方に関する方針」に示されている5つの基本施策に関わる実践研究を推進しています。

白石区・厚別区は基本施策2「札幌市の幼児教育の質の向上」を軸とし、副主題を設定しています。

- 研究主題 質の高い幼児教育の実現に向けて
～つながる ひろがる 札幌市の幼児教育～
- 副主題 白石区/厚別区 ～遊びを通した幼児期の学びとは～
- 研究の視点 主体的、対話的で深い学びの充実



<きくすいもとまち幼稚園の研究の重点>

一人一人が集団の中でよさを発揮し、
学びを深めるための環境づくりと援助
～年齢の枠を越えた関わりを通して～

学年の幼児が、他学年と関わりながらよさを発揮できた場面や姿をあげ、その時の他学年の姿や互いの学びについて話し合いながら、職員間で環境や援助について考察を行っています。

園長よりごあいさつ



園長 松井 泰子

3月、年長の子どもたちが幼稚園を巣立っていきました。年中・少の子どもたちは、一緒に過ごしたさくらさんとの“お別れ”を感じ、『ありがとう』の気持ちをもって修了式に参列していました。

数日後に行われた新入園児の一日入園では、年中・少さんが、自分たちがひとつ大きい組になり、新しい友達を迎えるんだという思いをもち、準備をしていました。優しく話しかけたり、お手伝いをしたりしている姿は、年長さんと楽しく遊び、教えてもらって体験したことを再現しているようで、子どもたちの姿が受け継がれていることを実感しました。

この一年間、遊びや行事、毎日の生活の中で年齢の枠を越えて子どもたち同士が関わられるよう、教師が意図的に機会をつくってきましたが、身支度のときや困っているときに年長児が年下の子にそっと寄り添うなど、そこには私たちの予想をはるかに越える子どもたちの自然な関わりが生まれていました。『友達や先生と一緒に楽しい、嬉しい』と感じ、一人より、誰かと共感することで喜びはもっと大きくなるということ、幼稚園の集団生活の中でたくさん味わったからこそその姿であったと考えています。

令和4年度に重点を置いて進めてきた年齢の枠を越えた教育活動が、自然な関わり姿となって表れ、子どもたちの心が育まれてきたことに大きな喜びを感じています。この姿が本園の風土となり、今後も子どもたちの間で受け継がれていくことを願っています。

子どもたちに深い愛情をもって教育活動を進める教職員『チームきくすいもとまち』は、子ども一人一人がよさを発揮して学びを深められるよう取り組んできました。このたび、一年間の教育活動及び研究実践園としての役割である実践研究をまとめました。御覧いただければ幸いです。

今後もより良い保育を目指し、力を尽くしてまいります。引き続き、保護者や地域の皆様と共に歩む園として、お力添えをいただければと存じます。



豊平川河畔に広がるさくらの杜公園は子どもたちの大好きなお散歩コース



札幌市市制100周年の記念動画「始まりの唄」に年長組が参加

年齢の枠を越えて学び合う・育ち合う

～令和4年度 研究のまとめ～

子どもの学び



やってあげる・やってもらう関係から
互いを認め合う関係へ…。
毎日の生活の中で同年齢では得られない
育ちや学びの姿をたくさん見ることができました。



円形の屋外用テーブルと、テーブルにも活用できるケーブル用のリールは子どもたちの集いの場に。



年長から年中、
年中から年少へと
遊びの伝承が
生まれます。



ホールにも、製作用の
用具や材料をワゴンに
乗せて常設。



保育室に戻らずホール
で遊びながら製作
できるので他学年が
が作る様子を目にする
機会が増えました。

環境も見直してみました!

「子どもたちに還元される研究」

「研究」を通して私たちが目指しているのは、子どもたち一人一人がよさを発揮し、幼児期にふさわしい生活を送るための保育の質の向上です。目の前にいる子どもたちの育ちや学びにつながるように、教員一人一人も学び続ける集団であることを、本園では大切に考えています。

「年齢の枠を越えた関わり」を通して 本園の子どもたちに育ってきたこと

- 互いの自己肯定感、自己有用感
(年長5歳児)
相手の気持ちを推し量って関わることを学び、年中少児に頼りにされてきました。自分たちが園の遊びをリードし生活をつくっているという充実感へとつながっています。
- 憧れの気持ちを持ち、真似をして学ぶ
(年中4歳児)
年長児に憧れて真似して遊んだ経験を、年少児に同じようにやってあげることで、人との関わり方を学びました。次に年長になる期待が膨らんでいます。
- 大人との関わりとは質の違う安心感
(年少3歳児)
大人の励ましや誘いよりも年長児の関わりによって心を動かす場面がたくさんありました。大人との関わりでは得られない安心感を持ち、行動範囲も広がっています。



一人一人の思いに寄り添う関わりを大切にしています

～令和4年度 研究のまとめ～

教師の学び

深い「愛情」をもって関わるからこそ
子どもの内面が見えてきます。
内面を理解することで
さらに温かいまなざしを向けることができます。

共感する人



助けてくれる人



一緒に遊びを
つくる仲間



「チームきくすいもとまち」

同じテーマ、同じキーワードをしっかりと共有してチームで保育を進めていくことが、子どもたちの安心感と年齢の枠を越えた自然な関わりを生み出していきました。子どもを見ている教師から子どもが見えている教師へスキルアップを目指します。

学年間の関わりを深めるために
私たちが努めていること

- 保育前の打ち合わせ
各学年の興味・関心や予想される行動などを出し合い、どこで関わりが生まれるかを予測し、教師間の動きを確認します。
- その場での柔軟な連携
子どもたちの遊びの姿から、教師間での方向へ向かうか予測し直し、必要な連携を図ります。
- 互いの目にとまる環境の構成
ホールや園庭など、共有スペースに遊びの拠点を作ることで、他学年と刺激し合い、遊びがより楽しいものになっていきます。
- 他学年のねらいの理解
遊びや活動を同じ場で楽しんでいる場面でも、学年ごとにねらいが違います。教師が互いに理解し、援助の仕方を変えています。
- 一人一人の育ちやねらいの理解
一人一人の発達の過程や、人との関わり方、興味・関心のもち方、表し方などを教師全員で共有し、他学年の子どもに対しても、意図をもって関わられるように努めています。

きくすいもとまち幼稚園の一日

預かり保育(8:00~8:45)

登園



親子での登園は、園生活の楽しさを共有する時間になっています。

自分でできることは自分で。そのために扱いやすいものを用意してもらっています。

所持品の始末



自ら環境に関わる活動(好きな遊び)



「やってみたい」ことを実現する遊びの中に、幼児期の学びが詰まっています。



学級活動など



学級みんなが取り組む遊びも、いろいろな環境を通して行います。



食に関する活動(おやつ・弁当等)



食べることは生きること。



食べる意欲は遊ぶ意欲。



みんなで育ててみんなで味わう!

降園



その日経験したことや遊びの成果を親子で語り合うことを大切にしています。

預かり保育(保育終了後~18:00)

「保護者と共に…」

預かり保育



専任の保育士が家庭的な雰囲気を大切にしています。

参観懇談



子どもたちの育ちを共有する大切な時間です。

遊ぼうDay



年数回に分けて全員の保護者の方に幼稚園の遊びを体験していただいています。

きくすいもとまち幼稚園の行事を通した多様な体験

★ 季節を感じて



行事の中でも一人一人が触れたいこと、やりたいことを大切に。気づきや発見がたくさん生まれます。



散歩・遠足



もちつき会

見るとやるでは大違い。だから実体験を大切にします。

★ 自分の力を発揮して

運動会



その日の結果も、プロセスの一部です。遊びの中で挑戦や勝負は続いています。

発表会



日頃の遊びの中から、自分たちで選んだものを発表します。だから、リラックスして表現を楽しみます。



★ 地域と交流しながら

お兄さん
お姉さんは
いつも
憧れの存在。



学校への期待も
高まります。

★ 子どもから子どもへ伝承して



年長児が中心と
なって企画する
行事は、次の学
年へ受け継がれ
ていきます。

「日常の遊びの延長上にある行事」

園では、年間の教育計画の中に様々な行事を取り入れています。行事について、幼稚園教育要領では、「幼稚園生活の自然な流れの中で生活に変化や潤いを与え、幼児が主体的に楽しく活動できるようにすること。」と示されています。さらに、行事に至る体験を通して、子どもの意欲を高めたり、子ども同士の関わりを広げたり、自分や友達が思わぬ力を発揮することに気付いたり、遊びや生活に新たな展開が生まれたりする機会とすることが大切であるとしています。

行事は、当日のできばえや結果で評価するものではありません。当日までの取組や終わった後の生活につながっていく中で、子どもたちの心を育みます。その背景には、行事を通して子どもたちに育みたいこと、そのためにどう援助するかを話し合い、子どもたちに関わる教師の支えがあります。

発表会では、園の生活を保護者の皆様と共有する場として、子どもたちが楽しんでいることを「おうちの人にも見せたい!」「どんなふうに表示したら楽しんでもらえるかな」などと、教師と子どもたちが考え、取組の過程を存分に楽しむことができました。

私たちは、園生活から離れた行事のための活動ではなく、子どもたちが経験してきたことだからこそ、自分の力を発揮できると考え、教育活動を展開してきました。友達や先生がいる環境の中で、互いに影響し合って、表現する楽しさを感じてきたと思います。当日は子どもたち一人一人が自信をもって表現する姿、そしてそれを支える教師の援助を御覧いただいています。

(令和4年度 園だよりより抜粋)



札幌市立きくすいもとまち幼稚園

〒003-0826
札幌市白石区菊水元町6条1丁目5-1



tel 011-873-2285 fax 011-873-0681

